柑芦会　本部　ニュース

第 24 号　2021. 7. 1.

—そして ここから—

1．寄稿ー①

ご　挨　拶

経済学部　副学部長

教授　長廣　利崇

経済学部の長廣利崇と申します。今年度から副学部長として学部の仕事に専念しております。また、紀州経済史文化史研究所の所長として、OG・OB の皆様方には全共闘運動に関する史料提供やインタビューのご協力を賜り感謝しております。私は経済史・経営史を研究しておりますが、今回は「コロナと歴史学」というテーマで印象深かった文献などを思いつくまま述べたいと思います。ご参考にして頂ければ幸いです。

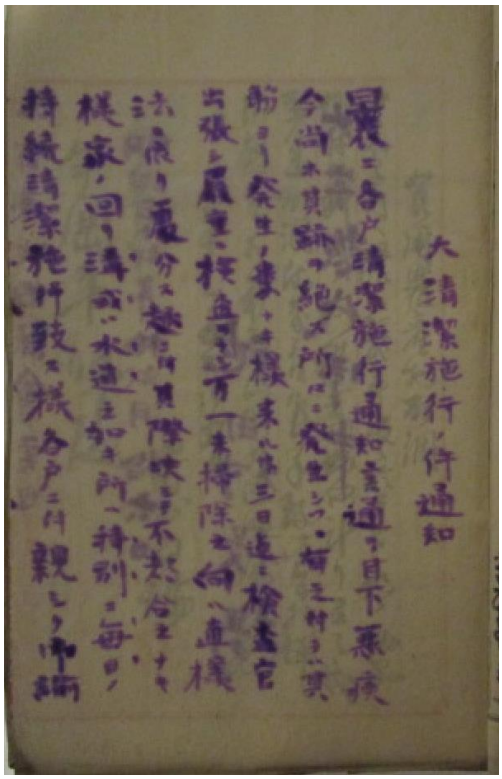
2020 年は億劫な年でした。新型感染症によって、多くの人が苦しみ、多くの人々が亡くなりました。そればかりか、感染の恐怖や疑心は、人の絆を分かち、社会が分断する可能性も孕んでいました。こうした状況のなか、歴史学には何ができるか考える 1 年でもありました。スペイン風邪の流行を再検討した、藤原辰史氏の「パンデミックを生きる指針」（https://www.iwanamishinsho80.com/post/pandemic）が大きな反響を呼んだのも、新型感染症に対する歴史学への期待が人々にあることを意味していましょう。アンドリュー・ゴードン氏の「日本とアジアにおける新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策の歴史的文脈」（https://www.tc.u-tokyo.ac.jp/weblog/1831/）のような、政府の「強制ではなく説得」による措置が有効であったことを、日本文化や日本人論の文脈から検討する見解も登場しました。

長らく絶版となっていた見市雅俊『コレラの世界史』（晶文社、1994 年）が 2020 年 5 月に新装版として復刊されたことも病気の伝播や公衆衛生を歴史的に顧みようとする声の高まりがあっからだと思われます。この復刊と同時期には、速水融『日本を襲ったスペイン・インフルエンザ』（藤原書店、2020 年）が再版されています。個人的に興味深かったのは、金森修『病魔という悪の物語 —チフスのメアリー』（筑摩書房 、2006 年）でした。1900 年初めのアメリカでチフスの保菌者と衛生局から認

定されたメアリーは、強制的な隔離や社会的な差別を受けます。この本には不条理な社会と戦うひとりの女性の物語が描かれています。

秋田茂・脇村孝平編の『人口と健康の世界史』（ミネルヴァ書房、2020 年）は、今までこの分野を研究してきた人たちによる学術性の高い論考が収められています。この本では、様々な病気（ペスト・結核・ハンセン病・精神医療・眠り病・コレラ・フィラリア・マラリア）にそれぞれの時代や国の政治・医療・公衆衛生がどのように対応したかを検討しています。安保則夫『近代日本の社会的差別形成史の研究（増補ミナト神戸　コレラ・ペスト・スラム）』（ひょうご部落解放・人権研究所、2007 年）は伝染病と差別との関係を分析した歴史研究です。「不潔箇所摘発キャンペーン」や貧困者の移転などによって、伝染病に対する社会や行政の対応が差別を促しました。

コロナ感染問題は現在もなお予断が許せない状態です。歴史学はワクチンを製造できませんが、感染に関する歴史的教訓を伝えることはできるのではないかと思います。（長廣利崇・近現代日本経済史・経営史）



写真：「大清潔施行」（1900 年）筆者所蔵文書
コレラなどを防止するために 1900 年に汚物掃除法が公布された。
この史料は和歌山県の池田村役場から通達された文書。

１．寄稿ー②

【北陸新幹線のこと】

北陸支部長　林　国敏

2015 年３月に開通して６年経った北陸新幹線（東京・金沢間）について、金沢市在住者として少し書いてみたい。

コロナ禍でこの一年半はめっきり利用客が減ったが、それまでの４年間での金沢の変化は予想以上に大きかった。

金沢駅から観光客が数珠つなぎになってスーツケースを転がして歩く光景はもはや日常になっていた。

テレビ番組で観光施設や郷土料理が繰り返し紹介され、たくさんの芸能人も頻繁に来県するようになった。
実際は特急サンダーバード（金沢、大阪間）も北陸新幹線（金沢、東京間）も同じ２時間半なのだが、乗ってみると新幹線は乗り心地がよく、同じ移動時間でも東京へ行くほうが肉体的疲労は少ない。これまで新潟で乗り換えをして４時間かかっていた東京が直通で２時間半になったことで心理的距離はほぼ半分に縮まったくらいに感じた。
朝早くから夜遅くまで大勢の乗客を乗せた新幹線が毎日２０往復も金沢・東京間を走るのだから、その経済効果は計り知れない。その効果は２~３年で収まるという予測もあったが、実際ふたを開けてみると利用客は年々増え続け、北陸新幹線の効果が一過性のものではないということが分かった。インバウンド客も増え続け、県内の観光、宿泊、お土産店、飲食店は空前の活況を呈していた。
2020 年３月はちょうど開業５周年にあたり、ホテルや観光施設は時期を合わせていくつも新規開業し、改装工事をした。もちろんこの開業ラッシュはオリンピックでやってくる世界中の観光客獲得も同時に狙っていた。
それゆえ今回のコロナ禍は、千載一遇のチャンスと意気込んで投資した人たちにとっては、最悪のタイミングになってしまった。まるでそれまでの４年間の活況が前フリとなって今回の事態を招いてしまったかのようである。
コロナ禍からの１日も早い回復を願うばかりである。
北陸新幹線は 2024 年春、金沢駅から福井県敦賀駅まで延伸することが決まっている。大阪までの開通はさらにずっと先になる。
こうして人の往来が盛んになり、北陸が経済的に発展することはもちろん嬉しいことだ。反面、ふるさとの自然や、風景、人情も未来に残って欲しいと願う自分もいる。
北陸人は気性的に粘り強くておとなしい人が多いといわれる。これまで裏日本の日陰に長く慣れてしまっていた北陸人にとって急にスポットライトを浴びて、大勢の人が押し寄せたこの数年は、なんだか落ち着かない日々だったのかもしれない。
閑散とした観光地を横目にしながら、ふとそんなことを思ったりした。

２．事務局より

臨時会長・副会長会開催さる

去る 6 月 24 日（土） 14:00～16:00 に、オンライン（Zoom）で会長副会長会が開催されました。

出　席：北村会長、坂本副会長（和歌山支部）、奥山副会長（大阪支部）、小林副会長（東京支部）
垣見副会長（東海支部）、平林副会長（神戸支部）、本部事務局（浦）　計 7 名

（1）和歌山大学学生の課外活動への「お祝い金」について

今般の硬式野球部の全国大会出場を機に、学生の課外活動に対する柑芦会からの支援について審議されました。特に全国大会出場等の顕著な成績を挙げられた個人・団体に対して柑芦会から「お祝い金」を贈呈することとし、その為 2022 年度定時理事会で会則変更を議題とすることになりました。

（2）経済学部創立 100 周年記念事業について

2022 年度に経済学部創立 100 周年を迎えますが、その記念事業の検討及び推進にあたっては、学部と柑芦会による「実行委員会」を設置することになっています。メンバーは双方から 4 名で、柑芦会から、北村会長、垣見副会長、平林副会長、小林副会長が出席することになりました。

今後「実行委員会」で記念事業の内容を検討していくことになります。

（3）今後の予定の確認

①次回定例会長・副会長会：2021 年 8 月 7 日（土）14:00～16:00　オンライン（Zoom）

②支部長会：2021 年 9 月 4 日（土）13:00～15:00　オンライン（Zoom）

※①②とも 5/15 定例理事会でご案内した通りです。

（柑芦会　本部事務局）

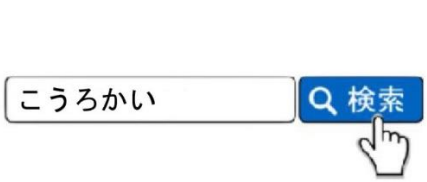
****

和歌山大学経済学部同窓会　　柑芦会　本部　事務局

〒540-0012　大阪市中央区谷町 4-4-17　ロイヤルタワー大阪谷町　207 号

Tel：06-6941-4986　Fax：06-6947-7925

E-Mail：honbu@kourokai.com　URL　：http://www.kourokai.com/honbu/



フェイスブック　　ホームページ「柑芦会」

「柑芦会オフィシャルグループ」

****